

2012年6月1日(金) @内閣官房

外国人との共生社会の実現に向けた基本的考え方

ー有識者ヒアリングのトップバッターとしてー

静岡文化芸術大学 文化政策学部 国際文化学科教授 池上重弘

<http://wwwt.suac.ac.jp/~ikegami/>

1. 日本で暮らす外国人

- ◇ 外国人登録者数は20年間で約100万人から200万人へほぼ倍増。
- ◇ 中国人が急増、東海地方ではブラジルなど南米系が目立つ。最近はフィリピンも。
- ◇ 金融危機、東日本大震災で外国人、とくにブラジル人は減少。
- ◇ しかし、永住者は減らず。定住化は時代の流れ。
- ◇ 2000年から2010年の10年間で、永住者は約30万人増加。とくに一般永住者が急増。

2. 金融危機以降の変化

- ◇ 2000年代は滞在長期化と家族滞在が進む。
- ◇ 2008年秋のリーマンショック以後、雇用環境が激変。失業して帰国する者が増加。
- ◇ しかし、日本に残った人の中では永住決意した者も。一方、いまだ気持ちが定まらぬ者も。
- ◇ 親世代の経済的安定が家族の安定・子どもの教育にも重要。

3. 外国人との共生に向けた政策

- ◇ 「多文化共生」をめぐる定義
- ◇ 出入国政策と社会統合政策
- ◇ 双方と歩み寄り、社会参画の促進、周辺化・底辺化の防止
- ◇ 労働政策、社会保障政策、教育政策、受け入れ社会に対する政策

4. 「外国人政策」の視点が見落としてしまうもの

- ◇ トランスナショナルな生き方への目配りが必要。
国境を越えて複数の国の間を往き来し、複数の国にまたがる生活世界を持ち、
その結果、複数の国に帰属意識を持つ多元的・多層的な生き方
- ◇ 「日本人／外国人」の二分法で括りきれない人の生き様
- ◇ 社会のユニバーサルデザインとしての多文化共生は、社会的弱者を包摂する社会につながる。
- ◇ さらにそれは受け入れ社会にとっても、多様性を受け入れる社会への転換の契機。